

産業建設常任委員会における管外行政視察報告書

令和8年1月15日

二戸市議会議長 田代博之 殿

産業建設常任委員会  
委員長 岩崎敬郎

当委員会は、下記のとおり管外行政視察を実施したので報告します。

記

1 管外行政調査

(1) 期 日 令和7年11月6日(木)

(2) 場 所 青森県八戸市

(3) 出席者

ア 委 員

岩崎敬郎 委員長

柴田清克 副委員長

菅原規正 委員

沼井賢壮 委員

内沢真申 委員

(4) 調査事項

ア 複合施設「ミチル種差」を拠点としたアドベンチャーリズムについて

相手方出席者：デーリー東北新聞社取締役会長、DTプロジェクト

株式会社支配人

2 管外行政調査

(1) 期 日 令和7年11月18日(火)

(2) 場 所 青森県黒石市、弘前市

(3) 出席者

ア 委 員

岩崎敬郎 委員長

柴田清克 副委員長

菅原規正 委員

沼井賢壮 委員

新畑鉄男 委員

内沢真申 委員

イ 同行者

佐藤浩伸 農林課長

岩崎 実 農林課農林企画監

田村穂華 農林課主事

金田一地区果樹生産者

(4) 調査事項

ア 新品種や育種技術の開発について

相手方出席者：りんご研究所所長ほか職員

イ りんご産業イノベーション戦略について  
相手方出席者：弘前市議会事務局次長ほか職員、  
農林部りんご課課長補佐ほか職員

※調査概要等は別紙視察報告書のとおり

# 管外行政視察報告書

## 1. 視察の目的

地域の自然・文化資源を活用した独自の体験コンテンツの創出と、それを通じた持続可能な観光地づくりの実現方法を学ぶことを目的に視察を行った。

## 2. 視察先の概要

青森県八戸市を代表する景観・種差天然芝生地のすぐそばに、宿泊・レストラン・テイクアウト・ショップが楽しめる、2025年5月にオープンした複合施設である。

## 3. 視察の要点

第3セクターではあるが、二戸市の観光宿泊施設と比較をすると、1番大きく隔たりがあるのは、『社会的責任』に対してのスタンスと、『コンセプト』がはっきりしていて達成するためのアクションもあって施設をオープンさせたところであると感じられた。オープンして約半年ではあるが、スタッフの教育も行き届いているように感じられ、地元地域や八戸市との連絡も密にとって来てくれる方を増やすためのイベント等の手を打つのも早いと感じた。

michill 種差で苦慮していることの中に、『情報をいかに届けるか』ということがあった。このことは、二戸市においても同様に思われる。情報は、単に発信すればよいものではなく、知ってほしいことを相手に届けて初めて効果がでる。michill 種差はデーリー東北新聞社の分割会社であり、新聞の力、読者に感謝しているという言葉は心から出た言葉だと思われる。二戸市においても情報の発信についてはまだまだ研究が必要だと思われる。

## 管外行政視察報告書

### 1. 視察の目的

本視察は、農業従事者の減少が進む中、生産量・販売額ともに日本一である津軽地方（青森県）においてどのような政策の下リンゴ生産を行っているかを勉強し、常任委員はもとより、当市農林課職員3名と実際に就農している若手農家の2名で視察を行った。

### 2. 視察先の概要

視察先は独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所および弘前市農林部りんご課である。

りんご研究所は軽米町に設置されている岩手県の県北農業研究所に新たに果樹を研究する部門が設置されたことによりわが市にとってどのような貢献策を行えるのかということを検分することにした。

弘前市役所りんご課は日本で唯一の農産物一点に絞り込んだ部門だけに全員が興味を持って視察をおこなった

### 3. 視察の要点

りんご研究所においては、①栽培部②品種開発部③病害虫管理部④県南果樹部の4部門の仕事をしており、特に④は青森県南（南部地方）を主とした管轄である。

栽培部は、耐雪性を有する省力栽培樹形に関する研究、効率的な結実管理法に関する研究、長期貯蓄技術の開発などを研究している。

品種開発部は、食味・栽培特性・技術継承性に優れた新品種の育成、地域に適した優良品種の選定を行っている。

病害虫管理部は、黒星病・褐斑病培など学んだ。

りんご産業イノベーションにおいては外貨を稼ぎ、域内マネーを還流する。弘前市にとって重要な基幹産業である。日本一の産地規模の維持。販売額の増進。

中心従事者の高齢化と同時に従事者全体の数の減少。人材不足・就業人口の減少・技術継承の機会の喪失・適正管理の困難さ・廃園の進行等同じように悩んでいることが説明された。

二戸市においても農協とがっちりと取り組むためにも腹を割った話し合いがされるべきである。